

令和7年度 政策研究共同研修に参加して



高知市 第一福祉課
高野 恵梨奈 さん

私自身、0から1を作ることを苦手としており、本研修においてもかなり苦労をした思い出があります。実際、当初は「観光」をテーマに政策案を予定していたのですが、上手に課題を見つけられずあきらめた経緯もありました。

それでも長期に渡って本研修を受講することにより「アイデアを生み出す力」を養うことができ、今回の政策に繋げることが出来ました。

高知市は県唯一の中核市であることから、当然課題も山積みです。今回養った力を今後も業務に繋げていくことで高知市の未来をより良いものにしていきたいです。

私はこの研修に参加して初めて新しい政策を一から考えました。その中でどんなことを調べないといけないのか、考えないといけないのかを学ぶことができました。

政策を地域課題と結び付けて考えていく中で、行き詰まること、悩むことは多々ありましたが、西野講師を始め、こうち人づくり広域連合の皆様、税務課の課長、係長、そして同じこの研修に参加された3名の方のアドバイスのおかげで最後までやり遂げることができました。

この研修が有意義なものであったということは、職場はもちろん、今後後輩にも伝えていきたいです。



安芸市 税務課
安岡 里哉 さん



須崎市 防災課
矢野 太一 さん

私は、日頃の業務において政策案を作成し提案する機会が多いわけではなく、ましてや大人数の前で発表する経験はほとんどありませんでした。

そのような中で、今回このような立派な会場で皆様の前で発表する機会をいただき、大変光栄に思うとともに、非常に貴重な経験となりました。

また、本提言の検討を通じて、日頃の業務だけでは気付きにくい地域課題を改めて見つめ直すことができました。今後は、そこで得た気付きを、日々の業務の中でしっかりと生かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、6月からの研修を通じてご指導いただきました西野講師、常にサポートしてくださいました人づくり広域連合事務局の皆様、そして共に研修に取り組んだ高野さん、田所さん、安岡さんに、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



越知町 企画課
田所 千明 さん

今回の研修に初めて参加した時は、政策についての知識がない状態で、通常業務と並行して最後までやり遂げられるか不安でしたが、研修やグループ会に参加し、たくさんの方からアドバイスをいただきながら、政策を形にすることができました。

研修を通じて、課題分析や情報収集に取り組む中で、最後まで考え抜く力が身についたと感じています。

最後に、ご指導いただいた西野講師やこうち人づくり広域連合の皆様をはじめ、支えてくださった皆様に心から感謝いたします。

令和7年度 インターンシップ体験記



今年度は1名の大学生がインターンシップに参加しました。インターンシップを振り返って感想を寄せてくれましたので紹介します。

学 生 中山 太陽さん (追手門学院大学)
配 属 先 土佐市 生涯学習課 土佐市市民図書館
実施期間 7月29日 (火) ~ 8月10日 (日)
感 想

この度は図書館業務のインターンシップに参加させていただきました。利用者対応や資料整理、館内での業務補助を経験する中で、図書館が地域や利用者にとって大切な役割を担っていることを改めて実感いたしました。特に、利用者の方の要望に応じて資料を探す業務では、正確さや丁寧さが求められることを学び、自分自身の対応力を見直すきっかけとなりました。今後は、図書館に関する知識や情報整理のスキルをさらに身につけるとともに、利用者にとってより快適で有益な場を提供できるよう努めていきたいと考えております。今回の経験を通して得た学びを、これからの進路や自己成長につなげてまいります。

インターンシップ生を受け入れていただいた土佐市の皆さま、ありがとうございました。

発行：こうち人づくり広域連合



第68号 2025年12月

ゆるりっこの“ゆるり”は土佐弁で“囲炉裏”のことです。

令和7年度 政策研究共同研修 事業報告



写真左から：西野 毅朗講師 (政策指導)・高野 恵梨奈さん (高知市) 田所 千明さん (越知町)・安岡 里哉さん (安芸市)・矢野 太一さん (須崎市)

政策研究共同研修は、地域課題をテーマとして課題解決に向けた政策研究を行い、職員の実践的な政策形成能力の開発を図るとともに、活動成果を構成市町村の施策に反映させることを目指す研修です。令和7年度は、4市町4名が参加し、(一社)日本経営協会の講師、西野毅朗氏の指導のもと、政策課題の発見から分析、情報収集を行い、研究生の所属する自治体が抱える課題解決の具体化に取り組んできました。研究生が5か月間にわたり互いに切磋琢磨し完成させた政策提案を、10月31日(金)トップセミナーにて発表しました。

政策(企画概要)は次ページから

令和6年度こうち人づくり広域連合一般会計歳入歳出決算の報告

10月28日に開催された、こうち人づくり広域連合議会第47回定例会で、令和6年度決算が認定されましたので、お知らせします。歳入と歳出の概要は、次の表のとおりです。

【歳入】				【歳出】			
款	予算現額 (A)	収入済額 (B)	(B-A)	款	予算現額 (A)	支出済額 (B)	(A-B)
1 分税金及び負担金	131,734,000	131,734,500	500	1 議会費	539,000	214,900	324,100
2 財産収入	1,069,000	1,069,000	0	2 総務費	80,615,000	78,221,402	2,393,598
3 繰入金	10,000,000	10,000,000	0	3 事業費	69,621,000	64,738,074	4,882,926
4 繰越金	8,955,000	8,955,907	907	4 予備費	1,000,000	0	1,000,000
5 諸収入	17,000	19,128	2,128	歳出合計	151,775,000	143,174,376	8,600,624
歳入合計	151,775,000	151,778,535	3,535	歳入歳出差引残額		8,604,159 円	

令和7年度 政策研究共同研修 企画概要

生活保護受給率の低下を目指して —何年経っても輝ける未来へ—

高知市
第一福祉課
高野 恵梨奈



ビジョン 新たに企業開拓員を配置することで、生活保護受給者の自立を助長！

現状 高知市の保護受給率は全国的に見ても高く、受給者のうち最も多いのは高齢者

■自立支援の現状

高齢受給者への聞き取り

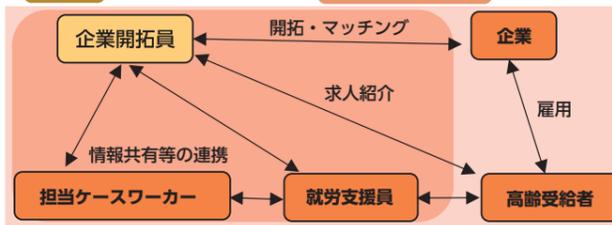
- 身体的に長時間の労働は難しい
- 若い子と同じような技量を求められたら困る
- 意欲はあるが、以前の就労先で年齢や病状的に断られたため、もう働き先はないのではないかと

企業を開拓しマッチングを適正に行う人材を配置することで自立を助長できるのではないかと

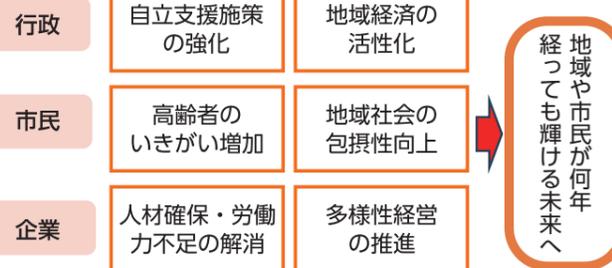
就労支援員への聞き取り

- 高齢受給者も希望があれば就労支援プログラムへの参加は可能
- 希望と就労先のマッチングが困難
- 就労支援員は雇用条件上、企業開拓は不可
- ⇒雇用条件を変更しても、現状の業務に加えては難しい
- 他部署の「無料職業相談所」は生活保護受給者は活用対象外

政策 企業開拓員の配置 組織体制・手順



- 効果**
- 就労先の増加
⇒ 就労希望者の就職可能性の増加
 - 雇用数・就労収入の増加
⇒ 自立増加による生活保護率の減少



予算

【人件費】 2,700千円/名 (市負担：675千円)
※1名あたりの人件費は既存の就労支援員の人件費を平均し算出

国庫負担金の活用：国の負担割合…3/4
市の負担割合…1/4

※生活保護業務であれば既存の国庫負担金の活用が可能



スポーツのまち安芸

～地域を繋ぐスポーツの拠点づくり～

安芸市
税務課
安岡 里哉



ビジョン 旧安芸中学校跡地をスポーツ複合施設として整備、安芸市をスポーツのまちに！

現状 市民アンケート調査・事業者アンケート調査で旧安芸中学校跡地の使い方を調査したところ…
身体を動かしたりスポーツなどをしたり健康づくりができる場 が市民アンケートでは**57.2%**、事業者アンケートでは**55.2%**と最も最多！

★安芸市のスポーツ施設
安芸市営球場、白馬テニスコート、安芸ドーム、安芸市体育館、内原野体育館、安芸市武道館 など
→サッカー・陸上競技を本格的に行える施設が無い…

政策 旧安芸中学校跡地をスポーツ複合施設として整備する！

- 運動場に陸上トラック300m 4レーン
- 南側は短距離用に直線を延長
- 内側はサッカー用に人工芝



- 効果**
- 地域・多世代間の交流による地域コミュニティの活性化
 - サッカー・陸上競技の競技力の向上
 - 高知県東部地域からの利用
 - 少年サッカー公式試合の再開 (東部地域以外からの利用)
 - スポーツ合宿施設としての活用

予算

- ①初期費用
サッカー 1.1億円
陸上競技 4,000万円 } 1.5億円 (推定)
- ②維持管理費
サッカー 20万円
陸上競技 30万円 } 50万円 (推定)



- ・活用可能性のある補助金や制度
- スポーツ振興くじ助成金 助成率2/3 助成限度額1億円
- 安芸市ふるさと応援基金 (ふるさと納税寄附金) 5,000万円
- ネーミングライツ 80万円/年

未来を守る、新しい防災のカタチ 地域防災活動に現役世代をゆる〜く取り込もう

須崎市
防災課
矢野 太一



ビジョン 地域での助け合い (共助) が機能することで、災害発生時の復興スピードUP！

現状

現在、地域防災活動の縮小が深刻である理由としては…

- 1 住民の関心・意識の低下
活動内容のマンネリ化、参加メリットの不明確さ、災害経験の風化
- 2 地域コミュニティの希薄化
ライフスタイルの多様化、デジタル化の進展
- 3 自主防災組織の担い手不足・高齢化
特定の人への負担の偏り、リーダーシップの継承困難
- 4 行政との連携不足・支援の限界
地域の主体性の尊重と介入のバランス、情報共有の課題、財政的・人的リソース 等



政策

① 防災専用SNSの運用

目的 …命を守る情報を“届く形”に！
防災を“日常の関心事”に！

ターゲット …10代後半～60代前半(子育て・現役世代中心)

位置づけ …紙媒体よりSNSを見る若者世代への情報を補完

内容 …市の公式LINEアカウントを創設し、災害時の情報だけでなく日常的に防災に役立つ豆知識や活動報告を発信



現状を打破するためには“現役世代”の参加を促すことが必要！

効果



② 須崎防災フェア

目的 …楽しい体験で防災を自分ごとに！
共助への理解促進

ターゲット …20～40代 (子育て世代中心)

位置づけ …平時的な“ゆるい訓練”
SNSのフォロワー増加

内容 …しんじょう君の防災ステージ
防災事業者の商品紹介・体験ブース等



ちょっとおでかけごはん会

～集落支援員による共食促進事業～



越知町
企画課
田所 千明

ビジョン 「定期的にごはん会を実施して閉じこもりの防止や生きがいづくりに！」

現状

★明治東部地区
体操のみの参加者数：6名程度
ご飯会の参加者数：15名程度

参加者は女性が多い

男性の参加者増
→男性を外に連れ出すきっかけに！

- Step1** 誰もが気軽に集まれる場所
・パランスの良い食事提供
・生きがい↑
- Step2** 心身ともに健康に
・コミュニケーション↑
・閉じこもり予防
- Step3** 健康寿命の延伸
・医療費や介護費の削減
・孤独な高齢者を作らない！

食事だけでなく、「交流・見守り・健康」を育む地域の場に！

ごはん会を開催すると参加者 増

誰かと一緒に食事ができる場所
需要あり!!



政策

① 集落支援員 (食のコミュニティづくり担当) の雇用

・エリアにとらわれない、食のコミュニティづくり担当を新たに2名雇用する

- 活動内容**
- ・食のコミュニティづくり (ごはん会の開催)
 - ・参加者の送迎
 - ・地域巡回 など
- 勤務形態**
- ・週3日×7時間

② 公用車での送迎を可能にする

【利用料】 無料
【利用方法】 事前登録制
【対象者】

- ① ごはん会の参加者
- ② 申請時の年齢が70歳以上のみの世帯の人で、徒歩や自転車以外の交通手段がない
- ③ 介助を必要としないで、車の乗降ができる

【使用車両】 公用車

新規購入不要！
所有する公用車で、稼働率が低いものを活用！

